

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 2 月 29 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	齋藤美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

タンザニア

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

雨季におけるセレンゲティ国立公園とカタビ国立公園の視察

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 28 年 2 月 15 日 ~ 平成 28 年 2 月 28 日 (14 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の渡航ではセレンゲティ国立公園とカタビ国立公園を訪ねた。

① セレンゲティ国立公園

目的: キリンの生息域の植生を把握。カタビ国立公園で見られるミオンボ林との植生の違いを把握
結果: キリンは 10 頭前後の集団で観察されることが多かった。それらの集団が観察された主な場所は、キリンの腰までの高さほどのブッシュ地帯であった。カタビ国立公園で見られるような、落葉性樹林から成るミオンボ林は見られず、ブッシュ、アカシア林が広く分布していた。そのアカシア林はミオンボ林に比べ樹幹距離が広く、見通しが良い印象を受けた。



写真 1 : セレンゲティ国立公園で見られたオス集団。

カタビ国立公園

目的: 乾季との植生の違いを把握。キリンの分布を把握。子供が観察できるか確認。

結果: 乾季に比べ多くの植物が生育していた。草丈が私の腰上ほど生育し、藪なども乾季に比べ密生していた。そのため、見通しがきかずキリンを見つけても顔だけしか見えない、といった状況であった。ウォーキングサファリを行ったが、草丈が長い安全面を配慮し、乾季に行っていたオ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

フロードでの散策が出来なかった。

雨季は食物が豊富で分散しているためか、頭数の少ない集団が多く見られた。普段調査を行っている国立公園事務所付近では一頭しか観察することが出来なかった。

滞在日数が短いことも影響し、子供は観察できなかった。



写真2：カタビ国立公園で見られたキリン。顔だけがかろうじて見える。

総括

今後の研究計画を立てるうえで、雨季に調査地を訪れることが出来て良かった。植生は乾季と雨季で顕著に異なり、乾季に実施していた調査方法を雨季に行うことは難しいことがわかった。そのことから今後も乾季を中心にした調査を行いたい。

セレンゲティ国立公園とカタビ国立公園で植生に違いが見られたため、キリンの子育て戦略もその植生の違いに合わせて異なると考えられる。今後、調査の枠組みをセレンゲティとカタビにおける子育て戦略の比較、といったように幅を広げていきたいと感じた。

また調査許可関係機関である TAWIRI, COSTECH, イミグレーションオフィスを訪れた。調査関係者との顔合わせ、調査許可取得の手続きを進めることが出来た。これにより次回タンザニアに渡航した際にスムーズに調査を開始できることが期待される。

カタビ国立公園の公園長にも面会し、来年度の乾季に調査を実施したい旨を伝え、了承を頂いた。

6. その他 (特記事項など)

今回の渡航は PWS の支援により実施されました。御礼申し上げます。

2 週間、旅と一緒に過ごした、野生動物研究センターの滝澤様、霊長類研究所の高島様、日本モンキーセンターの寺尾様にも感謝申し上げます。